

福井まちづくり啓発録

～育おまち うららのまち～



【コンセプト】

福井の中心市街地は江戸時代に形成された環郭式の城郭構造が基本的には引き継がれており、本丸と内堀は現在でも城址としての名残を大きく留めている。また、内堀の外側は鉄道が整備されたり外堀が埋め立てられながら行政や業務機能などが集積し、戦災、震災により大きな被害を被ったものの、都市基盤が大幅に強化された市街地として生まれ変わってきた。

このように長らく県都の中核を担ってきた中心市街地であるが、市街地の更新期を迎えつつあることもあり、現在では必ずしも市民の誇れる場所になっていない。一方、近年になって福井城址の歴史的価値の再評価、中央公園の再整備、市民文化活動の拠点づくりなどの機運も高まっており、新たなまちの魅力の創出として期待されている。

こうした状況を勘案すると、これからの福井の中心市街地は整ったインフラと機能集積を活かしたうえで、市民の心の拠りどころとなるような魅力づくりに注力すべきである。そのためには個別のプロジェクトだけでなくまち全体としての取り組みが必要で、市民が将来像を共有したまちづくり、戦略的、継続的に展開していくまちづくりを、福井市民の現代版まちづくり「啓発録」として提案する。それらが実現すれば福井の中心市街地は再び郷土愛に満ちたうららのまちとしての誇りをとり戻すだろう。



- 一.復原 本丸を復原し市民に親しまれる場所をつくる
- 一.再編 県庁、業務機能を再編して都市機能の集積を維持していく
- 一.眺望 福井駅と天守閣を結ぶ都市軸を形成する
- 一.回遊 外堀空間を快適なオープンスペースとして再現する
- 一.郷土愛 まちの再編と合わせてまちづくりの担い手を育成する